

『豪雪はそれ自体災害』、住宅の除排雪などへの支援が必要 井上さとし参院議員、上越市山間部の豪雪地域を視察

「いやー、どんどん増えていくね。これは大変だ」日本共産党の井上さとし参院議員は2日、党市議団とともに、吉川区、大島区の山間部へと車を走らせ、豪雪地域を視察しました。

私の牛舎を朝8時に出発。まずは吉川区上川谷を目指しました。車中で、私は上越市が取り組んでいる要援護世帯除雪費助成制度や冬期保安要員制度などについて説明、国からの支援を働きかけてほしいと要請しました。

上川谷は2日午前9時現在で3メートル16センチの積雪。冬期保安要員の宮川俊一さんや、80歳で一人暮らしをしている田辺ミヨさんから、雪との闘いについて話を聴きました。

宮川さんからは、冬期保安要員としての仕事

の内容をお聴きしました。田辺さんからはここ数年の豪雪下での暮らしについて語ってもらいました。田辺さんは、数年前の冬の夜中に具合を悪くし、冬期保安要員の助けでやっと医者にかかることができたことなどを語り、「保安要員がいなければここでは生きていかれない」と訴えました。

続いて一行は、主要地方道上越安塚柏崎線を通って大島区へ。角間、板山では道路脇の雪の壁を崩す作業が行われていました。

大島区竹平はこの日、上川谷を上回る積雪を記録していました。同日午前9時現在で3メートル30センチ。ここでは数日前から湿地ブルやバックホーなどを使って民家周囲の除排雪が行われていま

した。内山文英町内会長の案内で、一人暮らしの女性宅を訪問し、話を伺いました。民家周囲の除雪をこの先もできるようにするには、道路脇の大きな山となった雪を処理する必要があるとの判断から、バックホーなどで大がかりに雪を移動する作業が行われていました。同町内会長からは、空き家もふくめ除雪対策の強化を訴えられました。

その後、一行は大島区藤尾へ。途中、雪崩防止柵の設置状況などを視察しました。調査を終えた井上さとし参院議員は、「災害救助法適用前でも除雪などでの苦労が多い。豪雪地帯の課題は山積みで、住み続けるには経済的にも時間的にも負担が大きいです。それにふさわしい支援が必要だ。今後、豪雪地の議員などと連携して、国に対して支援や安全対策の強化を求めていきたい」とのべていました。

井上議員、上越市での調査を紹介

井上参院議員は5日、国会議員と豪雪地域町村議会議長会との懇談会に参加しました。

その中で井上議員は、上越市での豪雪調査について紹介しながら「豪雪は放置すれば危険に。同時に家屋や人的被害がでてなくても除排雪の莫大な負担など『豪雪はそれ自体災害』という立場で国が支援するよういつも政府に確認してきた。自治体への財政的支援や、住宅の除排雪への支援、燃料への税の軽減措置の拡充など、さらに取り組んでいく」と挨拶しました。



吉川区上川谷で保安要員から話を聴くメンバー



大島区竹平



私の牛舎で除雪機を運転する井上参院議員



これが「じゃがじゃが煮」。オータムポエムは私が追加したもの。1月29日、板倉区にて撮影。

愛知県に住む弟が母のところへテープと写真を送ってきました。昨年のお盆に里帰りをしていなかったのに続いて、今年の正月にもふるさとに帰らず、母が「どこかへ行っていなきやいいが」と心配していた、その弟からです。

最初に、弟が送ってきた写真を見て思わず噴き出してしまいました。どこかの音楽ショーに参加した時のものなのでしょう、きらびやかな服と帽子を着用し、マイクを握って歌っている写真が数枚入っていました。本人は恰好いいと思っただけで送ってきたのでしょうか、「フーテンの寅さん」のような雰囲気が出ていました。

テープには母へのメッセージ、弟が歌った曲、ラジオ番組に出演した時の録音が入っていました。

テープレコーダーのスイッチを入れた時、最初に聞こえてきたのは、「ランララララー、ランラララー……」です。そして数秒後、弟のメッセージが始まりました。

「こんにちは、先日、母ちゃんの声を聴いて安心しました。正月には帰れなかったけど五月には家に帰って母ちゃんとゆっくり話をしたいと思っています」。静かな響く声はおそらく、自分が経営しているカラオケスナックで録音したものでしょう。

「いま流れている曲は母ちゃんの好きなラララ節です。そう、由紀さおりの『夜明けのスキヤット』ですね。私は勉強嫌いで、スポーツと歌だけは大好きでした。いまも歌に関わる仕事をして司会などで頑張っています。きょうは母ちゃんと天国の親父に歌を二曲贈りますので、それを聴いて、元気を出して、風邪をひかないように頑張ってください」

弟が歌った最初の曲は森進一の『おふくろさん』でした。「おふくろさんよ、おふくろさん……雨が降る日にや笠になり、おまえもいつかは世の中の……忘れはしない」と歌い、二番に入る間にまた語りが入っていました。

「男兄弟四人、たいへんだったと思います。母ちゃん、ありがとうございました。冬になると、父ちゃんは出稼ぎに出かけ、母ちゃんは家で雪かきをして家を守っていました。また、カンジキをはいてほしいだけを探りに行き、それを売りに出かけていましたね。そのたいへんだったころのことを思い出すと心が痛みます。母ちゃんの分までご飯を食べてしまい、兄貴に怒られたこともあります。母ちゃんは釜の底のご飯を食べていましたね。ごめんなさい」

母へのメッセージ、語りは二番を歌ったあとも続いていました。まあ、よくしゃべる、しゃべる。兄弟げんかをした時のことなどの思い出を立て板に水のごとく語り続けていました。

語りの中で弟は、私のことにもふれていました。私が高校受験で合格した時のこと、私が小さな母を抱きあげ、天井にぶつかりそうになるくらい高く胴上げしたというのです。それを見て、弟はうれしくて泣いたと語っていました。私の記憶からはすっかり消えていたことですが、弟の記憶にはしっかりと残っていた、これは私にとってもうれしいことでした。

長女によると、弟が送ってきた写真を見て、テープを聴いた母は喜んでいたといえます。じつは弟のことを心配している母を見て、「おふくろに心配かけちゃ駄目だねか」と私からそっと電話をしておいたのです。母への声の便りの最後の言葉は、「母ちゃん、ありがとう。では、また……」、ちよつと涙声でした。

暮らしを守る政治へ…「新春の集い」楽しく



日本共産党橋爪法一地域後援会主催の恒例の「新春の集い」が2日に行われました。約50人の皆さんから参加していただき、とても有意義な会となりました。

第一部では、私が市政報告をし、井上さとし参院議員が国政の課題について講演しました。市政報告では、災害救助法適用問題、通学路の安全対策、総合事務所の見直し問題などでの私の質問や見解を紹介しました。

井上参院議員は、デフレ対策は賃上げなどによって購買力を高めることが要であり、大企業の内部留保をちよつとまわすだけで可能と語りました。また、被爆二世として憲法改悪の動きは許せないとのべ、改悪にストップをかける決意を表明しました。

懇親会は今年も盛り上がりました。朗読グループの皆さんが私の書いた「わら布

団」を群読、さらに紙芝居プラスαで「金色夜叉」を披露してくださいました。ボール箱に豆を入れて波の音を出すなど、なかなかの演出でした。紙芝居の絵の裏に書かれた原稿を読む小田さん、蹴飛ばされて倒れこむお宮役の村松さん等、みなさん熱の入った演技を見せてくださいました。仙田さんが「炒って食おうか、種にしようか」という民話を語り、大きな拍手を浴びました。今回集いでは、じゃんけんゲームが終わってから原発の問題などで質問が相次ぎ、参院選に向けて良いスタートを切ることができました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	1月30日(水)	2月6日(水)
上越南消防署	0.033	0.033
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.043	0.047
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.037	0.040
東頸消防署	0.047	0.043
高士分遣所	0.063	0.047
名立分遣所	0.046	0.050